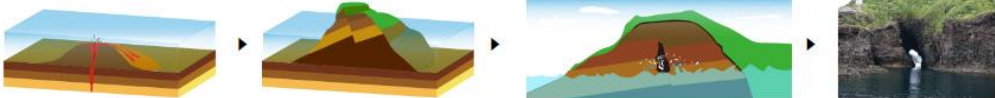


地質サイトカード

カードNo.		A-①-12	通しNo.	12	作成日	2025/4/28	
サイト名		かか くけど 加賀の潜戸					
基本情報	エリア	島根半島 探訪サイト					
	区分	☒ 地質・地形	☐ 生態	☒ 文化			
	利用価値	☒ 科学	☒ 教育	☒ 観光・ツアー			
	所在地	松江市島根町加賀					
	アクセス	マリンプラザまで松江だんだん道路川津ICから約11km、約15分。 マリンプラザから潜戸観光遊覧船で観察ができる。					
	周辺施設	☒ トイレ ☒ 売店 ☒ 飲食店 ☒ 駐車場(70台) ☐ ウォーキングコース ☐ サイクリングコース ☒ 観光施設(マリンプラザしまね、潜戸観光船)					
	看板整備						
	留意点	潜戸観光遊覧船の運航は3月～11月				位置情報	d-2
保護・保全	法規制・関連団体等	大山隠岐国立公園、国指定文化財(名勝および天然記念物) 一般社団法人 加賀潜戸遊覧船					
	保全メモ						
サイトの解説	みどころ	T字型トンネルの海食洞と海底火山の堆積物					
	地質・地形	島根町加賀の一帯は、約1400万年前の安山岩溶岩(一部玄武岩を含む)とその火砕物や火山砕屑性堆積物で構成され、それらは複雑に重なりあう。旧潜戸付近では北西方向に傾斜し、垂直な摂理が発達する安山岩溶岩と火山角礫岩が交互に繰り返す。全体として約40m以上の厚さとなる。新潜戸付近では安山岩溶岩とその火山角礫岩が少なくなる一方、火山砕屑性の火山円礫岩や凝灰岩が主体となる。 加賀の潜戸は、半島の形成に関わった地殻内部の力を反映している。新潜戸とその約1km東にある的島(まとしま)は、同じ東西性の断層によって侵食が進み、洞門を形成している。旧潜戸から新潜戸へ延長する南北性の断層は、破碎でできた断層角礫岩を伴っている。断層が形成された年代は特定できないが、西南日本列島の応力場が変化した中新世後期以降(500～300万年前以降)に形成されたとみられる。					
歴史・文化生物・生態等	歴史・文化	新潜戸は、佐太大神(さだのおおかみ)(松江市鹿島町の祭神)がここでお生まれになったと「出雲国風土記」に記載されている。かつては加賀神社が鎮座する神域として深く信仰されていた。 大神誕生の時、母神・支佐加比売命(きさかひめのみこと)が大切にしていた弓矢が波にさらわれ流されてしまい、「失せた弓矢よでてこい」と祈念されると金の弓矢が流れてきた。支佐加比売命はそれを取り上げ「暗き窟かな」と申されて、金の矢を放たれ岩を射通された。その際、射通された東口から光が射し込み明るく洞内が光り輝いたため、「あゝ、かかやけり」と申されたのが、ここ「加加(かか)」の地名のはじまりで、後に「加賀」と改められたと記されている。 射通した金の矢は勢いあまって沖の島まで射通し穴があき、成長された猿田彦ノ命(後の佐太大神)がこの穴を的に弓の稽古をされたので、この島は的島(まとしま)と呼ばれている。 神話は今に伝えられており、夏至の頃、的島のあたりから昇る黄金色に輝く朝日の光が一直線に洞内に射し込む様子は、まさに「黄金の矢」そのもので、神代を想わせる光景が目の前に広がる。(加賀潜戸遊覧船HPより) 海岸付近には、絶滅危惧種であるヒトモトスキの生育が知られている。					
	生物・生態						
写真・図等		①海底で火山活動が生じる ②隆起して地上に現れ、断層ができる ③波で侵食されて穴が開く ④現在 					
参考文献		島根地質百選					